

分娩誘発・促進について 2019.2.13

1. 赤ちゃんとお母さんのためには、もう分娩しなければならないのに、自然にお産が進まないため、分娩誘発が必要です。
2. 既にお産が進行しているのに、進行が病的に遅く、このままでは、かえって母児の予後が悪くなる可能性があるため、陣痛促進が必要です。

分娩誘発の適応

過期妊娠、胎盤機能不全、子宮内胎児発育不全（潜在性胎児仮死）、胎児死亡、感染症：前期破水、妊娠中毒症、糖尿病などの内分泌疾患、羊水過多（少）症、妊娠継続が母体の危険を招くもの（巨大児、児頭骨盤不均衡）、墜落分娩既往：経産婦で子宮口3cm、産科異常既往、医療施設の体制上で無痛分娩や骨盤位分娩などハリスドで沢山の人手を要するもの、微弱陣痛、本人・家族の希望誘発

要約

胎児の十分な成熟、経膈分娩が可能、既に母体が分娩準備状態であること。

方法

- 1) ラミン R、ラミリア、トコ(風船)によって子宮口を機械的に広げて分娩し易くします。
- 2) アトシ、プロスタミン F の薬を使用して陣痛をつけます。通常では帝王切開になる患者も、この薬によって経膈（自然）分娩することができます。この薬がきっかけになり、自然陣痛が発生した場合、薬を途中で中止することもあります。
- 3) 人工破膜法によって分娩がスムーズに進行することがあります。進行が遅く、母体や胎児が危険になったり、疲労して帝王切開になるのを防ぎます。

危険性

誘発、促進によって、特に薬剤を使用した場合、過強陣痛になることがあり、子宮破裂などを生じさせないため、定期的な分娩監視、陣痛モニターを行って予防に努めます。薬剤は早期に減量・中止するので当院ではこのような失敗は1例もありません。分娩停止（骨盤が狭い、回旋異常）や胎児仮死（酸素が不足して麻痺などが起きそうなど）は緊急帝王切開になります。誘発や無痛分娩が出血・帝王切開を増加させるような事実はありません。

分娩誘発・促進の同意書

長坂クリニック 医師 長坂正仁 長坂久司 殿

私は分娩誘発・促進の必要性、その方法、それによる不利益が利益に比べて小さいことを主治医から十分に説明を受け、理解しましたので、分娩誘発・促進を依頼します。医師、患者双方が努力したにも拘らず、赤ちゃんやお母さんの状態が変化することがあり、この場合に帝王切開になることがあることも理解しました。

年 月 日

住所 _____

氏名 _____ 印

家族氏名 _____ 印 確認サイン _____